

洛友會報

京都府左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛 友 会

七月 徒然

京都大学名誉教授
大正六年卒 松田長三郎

○京都は今、祇園祭も近づいて、34度を超す日が幾日も続いている。京都に生れ、育った私は、土地の氣候に慣れているし、左程のことは無いように思う。「心頭を滅却すれば、火も亦涼し」とは悟り切れないが、度を過ぎた冷暖房には、却って不快を覚える。以前、東海道新幹線で東上の際、車内があまり冷え過ぎるので、飛行機を利用したことが多かった。とは云っても、猛暑の中を、汗を流して歩いたあとなど、冷房のきいた場所に入るのは、流石にありがたい。

○連日の猛暑に、各電力会社とも、電力ピークは鱈上りに上って、節電をよびかけている。昭和51年以降の電力危機が叫ばれて既に久しいが、公害その他の掛け声が強く

て、各電力会社とも、予定の発電所建設が、一向に捗らず、遅延に遅延を重ねていることは、由々しい事態である。公害防止か電力確保か。電力は今や、社会生活や家庭生活、生産・運輸などあらゆる面において不可欠の生活要素である。簡単には行くまいが、無公害の、或は公害の軽微な電源開発が待望せられる所以であり、これに対する研究も活発である。

○大気や水の汚染も日増しに激しくなっている。魚介類は勿論、あらゆる食品が楡玉にあがっているが少し大き過ぎないかとも思ふが、用心に如くはない。経済大国にのし上り、敗戦国とは言え、円とマルクは悠々、世界の注視的となつて、世界に雄飛し世界各地に合弁の会社ができ、米国にも

日系資本の会社が進出して来ている現状は、快哉を叫ぶとともに今は一層、謙虚に、外国人、殊に発達途上国の人達に接触する必要もある。いづれにしても今は何もかも、豊富に出廻っていても、これからは、世界人口の増加・食糧不足・エネルギー不足に悩まされる時が来ると警告されている。エネルギーについては、所謂クリーン・エネルギーが今後の大きな一課題となる。

○こういう時に、一体、人間の能力・体力・知力(智情意)の限界は、どうであろうかと思ふことが屢々ある。私の懇意にしている比叡山延暦寺の長老阿耨梨葉上照澄大僧正の、壮年時代の難行苦行の跡を聞くにつけてもその生命力は、実にその信仰心・精神力にあることが判る。体力についても角力・野球・その他各種のスポーツなど、その成果は歴然と表わられて来る。どここの大学でも高校でも、各部の活動は甚だ活発で、時にはその訓練の激しさが、問題になることも多い。実にすさまじい、歯をくいしばつての涙ぐましい強烈なトレーニングである。この訓練を経て初めて一人前の選手になり得る。オリンピックを目指して世界のアマ・スポーツマンは、精魂をつくして日夜練習に励んでいる。プロとなれば、尚更である。

○人間の知恵は、一体どこまで発展するものであろうか。人類の発達史において、自然科学の方面では、近來異常な発達を遂げて来たが、精神文化においては遺憾ながら甚だしく立ち遅れて、両者のアンバランスが甚だしい。宗教・哲学・思想・心理その他、いづれの分野でも、自然科学界におけるような大きな進展は無い。ここに現代の大きな悩みと病弊があると云われている。さて然らばどうすれば良いかとなると、誰れも妙案は無く、世界中の人々が混乱不安の中に明け暮れている現状である。

○私が関係している財団法人近畿地方発明センター(前理事長は故石川芳次郎先輩)で、今回新館が落成し、その中に講堂を設けたの

で、去る七月六日(土)、湯川秀樹京大名誉教授に頼んで落成記念講演会を開いた。「科学と創造性」について約二時間に亘ってお話ししてもらったのであるが、新講堂の座席は二百しかないので先着二百名と予告してあったが、熱心な方は電話で照会せられ、当日は定刻の二時間も前から来られるという熱心さで、補助椅子を用意し、それでも立ったままの人も加えて男女約二八〇名の各界の人達が聴きに來て下さつて感激した次第であるが、それでもお帰り願った人達も相当あったことは、誠に申訳ないことであつた。次回は、湯川博士とともに、創造工学を推進しておられる同志社大学の市川亀久弥博士に「これからの教育と創造性」について九月八日(土)二時から行う予定である。各人の頭脳に藏められている或は眠っている創造性を喚び覚まし、振起させることは大切なことと思う。

去る六月 日、十四日会(大正十四年前後の卒業生の会)で、南紀方面に旅行されるについて、吉田吉三郎・木津圭藏氏等一行七名に加えてもらった。幹事の伊藤俊雄関西電力専務取締役は、当日欠席されたが、そのご配慮により、秘書・営業所・医務の方々がついて下さつて、至れり尽せりの歓待にはお礼の言葉もない。勝浦・那

京都の三十三間堂には、徳川時代通し矢の競技が行われた。これは一日ぶつ通して五・六秒に一本の割合で放つ矢数と、到達距離によって、海内無雙の優勝者が決定されるのであるが、これなども、人間の堪える力の限界を示すものである。それこそ各選手は、各藩の名譽にかけて、その技を競つたものである。

また毎年行われているそろ盤や暗算の競技においても、男女青少年の、神技とも云うべき素晴らしい成績を見ると、唯々感嘆する許りである。

○人間の知恵は、一体どこまで発展するものであろうか。人類の発達史において、自然科学の方面では、近來異常な発達を遂げて来たが、精神文化においては遺憾ながら甚だしく立ち遅れて、両者のアンバランスが甚だしい。宗教・哲学・思想・心理その他、いづれの分野でも、自然科学界におけるような大きな進展は無い。ここに現代の大きな悩みと病弊があると云われている。さて然らばどうすれば良いかとなると、誰れも妙案は無く、世界中の人々が混乱不安の中に明け暮れている現状である。

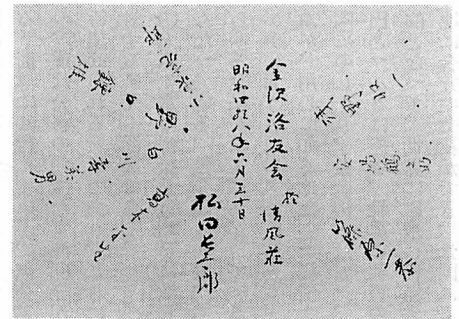
○私が関係している財団法人近畿地方発明センター(前理事長は故石川芳次郎先輩)で、今回新館が落成し、その中に講堂を設けたの

で、去る七月六日(土)、湯川秀樹京大名誉教授に頼んで落成記念講演会を開いた。「科学と創造性」について約二時間に亘ってお話ししてもらったのであるが、新講堂の座席は二百しかないので先着二百名と予告してあったが、熱心な方は電話で照会せられ、当日は定刻の二時間も前から来られるという熱心さで、補助椅子を用意し、それでも立ったままの人も加えて男女約二八〇名の各界の人達が聴きに來て下さつて感激した次第であるが、それでもお帰り願った人達も相当あったことは、誠に申訳ないことであつた。次回は、湯川博士とともに、創造工学を推進しておられる同志社大学の市川亀久弥博士に「これからの教育と創造性」について九月八日(土)二時から行う予定である。各人の頭脳に藏められている或は眠っている創造性を喚び覚まし、振起させることは大切なことと思う。

去る六月 日、十四日会(大正十四年前後の卒業生の会)で、南紀方面に旅行されるについて、吉田吉三郎・木津圭藏氏等一行七名に加えてもらった。幹事の伊藤俊雄関西電力専務取締役は、当日欠席されたが、そのご配慮により、秘書・営業所・医務の方々がついて下さつて、至れり尽せりの歓待にはお礼の言葉もない。勝浦・那

智大滝・青岸渡寺・那智大社、湖の岬など参拝・見学させて頂き、流石関西電力さんと感銘した。勝浦のホテル・「中の島」の室の金庫に、財布を置き忘れて出発し、那智大滝で土産物を買う段になつて気がつき、大変迷惑をおかけしたことは、満更、暑さのせいのみでは無く、少々「恍惚」になつたかと思われる。

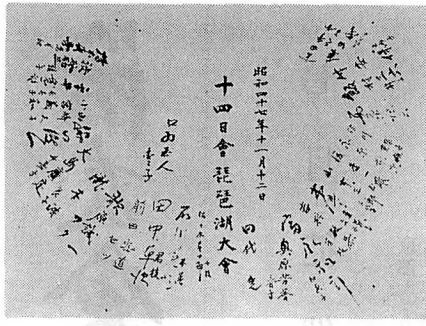
また六月三十日、金沢工業大学へ行った機会に、同地の洛友会員の方々が集つて下さつて、一夕の歓を尽せたことは感謝に堪えない。



○暑中皆さんの御自愛を祈ります。

よく勉強した十四日会

大正14年卒 木津圭蔵



昭和七年十月十日
十四日会琵琶湖大会

十四日会(大正十四年十五年合併同級会)は毎年老妻同伴を原則とする小旅行を続けていることは相当吹聴しているので宣伝も行き渡っていること存じますが、このところ幹事怠慢で洛友会々報にも暫く無沙汰をして申訳ない。本年(昭和四十八年)は東北電力の平井会員の肝煎で、この十月最上川、羽黒山、を中心二泊三日の東北大会が決つているが、昨年(昭和四十七年)秋の本会は京都周辺を見直そうと言う趣旨と

同一ホテルに腰を据えて尽ることのない歓談に友情を更に暖めようとの考へ方から琵琶湖で二泊三日の大会を開いた。この種会合としては少々変わった企画であり、会員も少々老齢化の傾向にある場合適当な催しであつたと思うので洛友会々員同級会のご企画にご参考にもなろうかと存じ大変時期遅れながら、十四日会健在の宣伝を兼ねてご報告いたします。

時は昭和四十七年十一月十二日より二泊三日、宿泊は二日とも琵琶湖大橋湖畔のホテルレクビア集るもの夫婦参加二十二組単独参加六名(うち一名夫人)計五十名。

第一日は京都グランドホテル集合、昼食後一路琵琶湖に出てピッコパレーに登つてその独自のアイディアを生じた技術に関心を示し第二日は歴史学の権威赤松京大名誉教授に特にバスにご便乗願ひ、琵琶湖にまつわる歴史や社寺仏閣の縁起など純学問的なご講義に耳を傾けつつ琵琶湖を陸路一周、第三日は京大臨湖実験所を訪れ琵琶湖の生い立ちやその水産魚介についての学術講演を拝聴、会員は両日とも夫々メモをとつての猛勉強をした。この間蓬萊山、白鬚神社、奥琵琶湖パークウェイ、渡岸寺、蓮華寺、西明寺、浮御堂、居初家など会員の殆んどが始めての訪れであつた。

もう永年、年中行事として楽しく育てて来た本会のこと、スタートから「それでは又来年」と別れを告げるまで和気あいあいお互いに年一回の出合いを心ゆくまで楽しんでたことは勿論だが、第一日は洋食第二日は和食とホテルの宴会場で好例の懇親会。もう素人芸とは言えない男女会員有志の表芸に時を忘れて、特に第二日京都島原の花魁を招じて、こしの式、花魁道中など古式豊かな数々のショー観賞の後、宴席に侍べつての花魁のサービスに一同は魅了された。

第三日最後に京都に母教室を訪ね大谷教授、近藤教授、清野教授のご案内で電気三教室情報工学会のご案内で

津軽風土記

昭八八年卒 八戸工業大学教授

川守田孝吉

天の巻

私はこの春、停年で弘前大学を去るまでの十三年間、津軽の城下町弘前で過しました。弘前は本州北端に位置するにもかかわらず、氣候温和まことに住みよいところです。当地で出土した縄文期の遺物や堅穴住居跡等の調査から、約六千年前既に人煙を見ることが出来たとされています。

四月も末になると春の遅い弘前でも桜が咲き、続いてリンゴ、つ

室体育館など見学の後美濃吉で昼食次回の東北大会を決定して散会した。

この琵琶湖大会は会員の希望によることもさることながら、企画実施等総べて会員口羽玉人氏のご尽力によるもので、歴史の赤松先生のご出講臨湖実験所の森先生のご講義などのお膳立てはみんな口羽会員の労作になるもの茲に深く謝意を表する。又毎回本会には会員小宮義和氏の夫々開催地方に関する歴史や故事に関する同氏ご研究のパンフレットのご配布を賜ることも勉強する我が十四日会には洵に有難いものであることを併せて同君に御礼申し上げます。

つじ、桃、八重桜等五月の頃は百花りよう乱、北国の春まさに酣の感があり、この頃が一年中で一番よい季節です。六月は宵宮、方々の神社やお寺の御縁日で、夕方から子供供、浴衣がけて夜店をのぞいて歩きます。七月に入ると、ねぶた囃子の太鼓や笛がどこからともなく聞えてくる様になって、八月初のねぶたまで続きます。ねぶたには弘前のと青森のと二種類あつて、弘前のは「扇ねぶた」と称し扇型の大きな行燈で、前面

には三国志や水滸伝などの傑作が画かれ、下の台には雲漢の文字が見えますがこれは天の川のことだそうです。裏面は見返りと称し女が血刀と生首をブラ下げて片割月を見上げている図柄が多かったが、この図柄も時代と共に段々変化して来て昨年などは見返りに高松塚の美人が現れたりしています

青森ねぶたは「人形ねぶた」と称し人物や馬などを立体的に張りボテに作って中に電球や螢光灯を入れます。ハネトという踊りの大衆がねぶたの前でハネ回るわけです。夏の夕ねぶた囃子の単調な太鼓の音を聞いてみると、つい睡気を誘はれるもので、ねぶたの語源もこんなところにあるのかも知れません。夏の夜を彩る北国の景物詩、ねぶたが終ると秋風が立ち初めお山参詣の頃ともなれば秋の気配が色濃く漂うようになります。お山参詣というのは津軽の農村で豊作を祈って大きな御幣をかつき、行列をつくって笛と太鼓で山麓の岩木山神社に集り、旧八月一日の朝山頂で御米迎を拜むという行事です。十一月公園の紅葉まつりが終るとそろそろ雪が降って翌年三月までの長い冬に入ります。

城の西は岩木川に面し一段低いのでその辺一帯を下町と称し武士階級の居住地であった。東の方は上町と称し商人の所謂町人町で、今でも土手町などの賑やかな繁華街はすべて上町にあります。或は平城で三重にお濠を廻らし数百年を経た老松と、数十年を経て最早古木となった三千本の桜が見事な借調を見せています。私は五年ばかり下町の五十石町に住みましたが、下町の老婆の言葉には昔の武家屋敷の名残を留めた床しい響があつて現在の所謂津軽弁とは雲泥の差があることを知りました。お城からは岩木山が真正面に見られますが、その山麓の岩木山神社は奥日光と称しなかなか立派なお社で、拜殿には東郷元師のあの特徴のある筆で「北辺鎮護」の篇額が掲げてあります。数年前までは此処から標高一六〇〇米余の山頂までみんな歩いて登ったものですが、今ではスカイラインで八合目までバス、それからリフトで歩くところは頂上の直下二、三百米だけになってしまいました。岩木山は津軽富士の名で知られた名山で、山頂からは遠く北海道渡島(おしま)の山々、眼下には津軽平野が拡がり、その中を岩木川が帯の様北上しています。又西には日本海が迫り、深浦、鰺沢の漁港、七里長浜の長汀が弓なりに北に伸びて権現崎に

地の巻

弘前はもと高岡といわれたが寛永年間弘前と改称されたところ

至り、海上遙に大島と小島の鳥影が見える。東には八甲田の連峰、陸奥湾の彼方、下北の恐山も遠望され、天気の良い時には太平洋まで一眺の下に取められるという、まことに雄大なパノラマを展開するのであります。

人の巻

本州北端の辺境、津軽などにメボしい歴史なぞあるものかと思ふかも知れませんがさにあらず、なかなか面白い史実があります。鎌倉室町の頃津軽に豪族安東氏があつた。安東氏は岩木川の河口十三湊を根拠として日本海の海上輸送を一手に掌握し、その経済力によつて津軽一円に強大な勢力を誇つたのであります。その祖先というのは平安の昔、後三年の役で安倍貞任討死の後その子高星丸家人と共に津軽に逃れ、茲に定着したものと云はれます。南北朝時代北畠顕家の子顯信、安東氏を頼つて津軽に下り浪岡城に拠る。室町幕府は三戸南部氏にその討伐を命じたので、ここに南朝方、北朝方入乱れて応永年間から百年に及ぶ攻防を津軽の野にくりひろげることとなつた。然るに興国二年(一三四一)突如として相内、十三に山津波が起り、安東氏の本拠は一挙に遺滅し、その勢力は急速に衰えるのであります。元中三年(一

三三八)南朝、長慶上皇津軽に下向され、相馬村紙漉沢に行宮を営まれたが、十年の後この地で崩御された。戦国の世に入り元亀二年五月(一五七七)梟雄大浦為信謀略を以て堅るい、石川大仏鼻城を急襲し、城将南部高信自害す。その後為信は次々に周辺に豪族を攻略し、遂に天正十七年北畠の残党朝日左衛門尉をその城飯詰館に討取つて、津軽統一の野望を成就したのであります。

電気屋雑感

昭和28年卒 小刀一晃 中国電力岡山支店

弘前城は藩祖為信と二代信牧の代に略完成した様ですが、今に残る老松はその頃のものと云はれます。

名物の桜は明治になって城も弘前公園と改まってから植えられたものです。以前には八師団の赤練瓦建の兵器庫なども残っていたが、今は全く取払はれて軍都の佛はどこにもありません。ゴールデン、ウイークの頃には例年花も見頃になります。機会があつたら御覧をお奨めします。

浅学非才僭越を省みず会員の義務を遂行させて頂きます。旧制の最後の先輩と共に赤煉瓦と銀杏を後にして二十年やつと企業活動をおぼろげに理解したところで振返れば過半星霜既になし、四十過ぎて大惑：という私が各界の同級生各位に雑談的お願いをする気持で書かせて貰います。会員の諸兄に一抹の苦笑を誘発できれば、幸これに過ぎるものはありません。

一、手の入らない自動車買うべからず。

当然故障すべき箇所あるいはドレインコックが付いている個所に

工具が入らない自動車が多くなつていきます。ケチで自動車をこのうえなく愛する者の一番の泣所です。ガバナ駆動用モーターの刷子取替にクレーンが必要で、水車発電機でいえばガバナ自体は油浸の構造ですから引込リド等を伝わる油により刷子は汚れ抵抗が増大します。すると励磁電流は減りVカーブによりモーター電流は増大し定格をオーバーします。たった3cmの刷子を取替るためにガバナ分解吊上、しかも曲線的に吊るといふ段取になります。水車メタル分割方式これは結構なことで吊上用アイボルトもきちつと取付け

てあります。しかし二分割をボルトで縫って一つに組むのに工具が入りません。相当な力を要するの眼鏡レンチに一・五mのパイプを溶接し、自家製で創意工夫をしてあるのですが第二ボルトはどうしてもレンチに嵌りません。タガネ締になります。締めるのはハンマーが順方向でまだ良いのですが外す時は相当に困難です。見掛の縮小合理化よりも手の入る合理化が望まれるのではないのでしょうか。

二、器用調整の排除

水車メタルが過熱した。分解点検20×20cmのピカピカになった当りが出ていた。50才のベテラン技師がシカラップなるアフリカ土人の槍先のようなもので十字にメタルを削ります。この手の技術温存には各所苦慮しているところですよ。現状ではこれが最も合理的のようです。ここまでは是認できま

すが旧式のLRはタップの定位位置に止めるのにブレーキシューを使用したものがありその調整は仲々むつかしくタップ渋滞も頻繁に発生しました。こういうものはHandに電磁ブレーキにすべきが当然でしょう。ガバナーの出力制限および起動条件設定のカムも器用な調整を要し今少し裕度のある設計が望まれます。

A B Bの投入、トリップの空気

用電磁弁も非常に微妙な所がありゴムパッキンに目に見えないゴミが付くと投入不能を発生する場合があります。グリスを塗らなければ洩気し塗り過るとゴミ等の障害が出るようです。LSの調整も仲々厄介で劣化し過熱しスプリング力減退の悪循環サイクルがどうしても発生します。ユーザー側からいえば投入後別途機械力で締付ける型(活線工具を使ってでも)という感じですよ。さらにこの機器には定格容量があつて無きが如きもので十年経過で容量半減という常識も発生しています。十分余裕をとった安定器は作れないのでしょうか。

三、MTBF不信論

近年弱電機器管理に使われるMTBF 10% 時間保証。これが全く当りになりません。一つは製品むら(最近ではほとんど無い)、輸送中の機械的損傷等による傷害他カウ

ントに入っていない事故が良く発生します。それより問題なのは単品としてMTBFをいくら保証してもそれが組上げられたSystemとしての信頼度です。悪いことに数多の部品の集合Systemである遠隔装置等是一个のトラブルが死命を制するのです。石そのものよりむしろ半田揚の技術不良というようなものが九俵の功を一簣に欠

きます。重要な管理テーマと思えます。なお現実的には単品の信頼度の向上には限度があり繊細な相手です。従つて重要箇所は並列回路で対処し故障時には表示が出るというのを望むのは夢でしょうか。月ロケット成功のこの種バックアップ方式はどうなっているのでしょうか。小さなものにも応用したいものです。また石は温度に弱いものです。シリコンになつて改善されたと言っても修理に行つて部屋の戸を開けば回復するといったケースもあり保守屋泣かせのものです。

建屋の設計からメーカー側の意見が入るようなコミュニケーションが必要なようです。

四、モデルチェンジする自動車買うべからず。

このことは技術革新を否定するものではないがそのたどり方を問題にしたい。自動車においては本質的なモデルチェンジでなく外形的なものが多い。これを防止したいのである。配電盤を例にとれば計器レレーの類は中身はいくら改善されても結構であるが外型寸法は少くとも十年間には変えないで貰いたい。取替時にmoulderの寸法違いのため盤加工を活線で行ふことになりミストリップの原因にな

るのである。フォルクスワーゲン社を望むこと大である。また技術革新についても五十年は蓄積しておきユーザー、メーカー協議してエポックを作つて変更するようにできないものか。寸法問題はメーカー各社でも統一されたいものです。特に故障表示器等の小物についての乱れが多いのも現状です。極論すれば配電盤面を四分割ボルト縫にしておき該当箇所を取外して加工したいがいかなるものか。

五、アクセサリーの多い自動車買うべからず。

これは流石に電機には少ないが問題は本体とアクセサリーの耐久に差のあることです。ユーザー側から言えば近年停電に対する世情益々厳しさを増大しており、省力要請も各社とも必然の折から小物の

ための修理の手間はなるべく避けたい。大久保達郎先生の駄目になるなら全部品同時にという講義が身にしみて、思い出されます。例えば変圧器のサーチコイル。これが直流接地をします。外部引出端子以降なら割に簡単に直るのですが本体内部であれば変圧器内点という大仕事になり二、三日では済みません。

最近では変圧器自体の信頼度は向上し現場の吊上クレーンは除却する趨勢ですから尚更のことです。戦時中の米車の通信機は一、五mmの単線が簡単明快に配線してありました。見習いたいものです。外部引出パイプでもリード束がやつと入る径のものが有り引込時に傷がついたり、取替となると大変です。少々不恰好でも太くしておきたいものである。

故 奥田一郎君(電講) 百ヶ日忌

講習所昭和11年卒 藤村俊一

桜満開の四月十日(日)、洛西太秦の奥田君の生家で同窓有志三十余名が相寄つて不慮の災禍で失つた級友の追悼会を催した。御遺族も松山と東京から帰京され平素親交のあつた恩師上西亮二先生を始め教室から林(千)、大谷、近藤の三先生に林(重)先生の奥様もお詣り戴いた。回向のあと遺族と級友代表に抱れて菩提寺の先祖の墓に町重に納められた。終つて故人ゆかりの『さがの』へ懇談会の席を移し主人が精選材料を集めて考案された『供養鍋』を囲んで種々と懐しい思い出話を諸先生方や先輩諸兄から承ることが出来て御殿父

昭和47年度収支決算書

昭和47年4月1日より
昭和48年3月31日まで

収入の部

Table with 3 columns: 科目 (Category), 決算額 (Actual), 予算額 (Budget). Rows include 会費 (Membership fee), 講習所費 (Seminar fee), 預金 (Savings), etc.

預金および現金 (昭和48年3月31日現在)

Table with 3 columns: 種別 (Type), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). Rows include 信託預金 (Trust savings), 普通預金 (General savings), 当座預金 (Current account).

支出の部

Table with 3 columns: 科目 (Category), 決算額 (Actual), 予算額 (Budget). Rows include 名簿 (Registers), 集刷 (Printing), 費 (Fees), etc.

昭和48年度収支予算書

昭和48年4月1日から
昭和49年3月31日まで

収入の部

Table with 3 columns: 科目 (Category), 予算額 (Budget), 前年度決算額 (Previous year actual). Rows include 会費 (Membership fee), 講習所費 (Seminar fee), etc.

支出の部

Table with 3 columns: 科目 (Category), 予算額 (Budget), 前年度決算額 (Previous year actual). Rows include 名簿 (Registers), 集刷 (Printing), 費 (Fees), etc.

昭和四十八年度
洛友会総会

六月三日(土)東京目黒八方園において、東京支部総会と合同にて開かれた。出席者約百二十名の盛況で、教室より林千博、大谷泰之、田中哲郎、西川禪一教授が出

を始め御遺族も始めて聞かれ和気の籠った集いとなり時間の経過を忘れて歓談した。特に級の中心的存在を失った昭

席した。鳥養会長は御老体のため、御休養御欠席されたので、新しく副会長に就任された林千博教授が代

て型の如く議事に移り昭和四十七年度事業並びに決算報告更に昭和四十八年度の収支予算に就て、山

本幹事より報告がなされ万場一致まで三十二名と支部会員八十名の

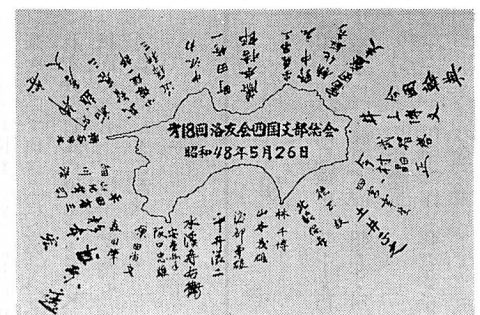
洛友会四国支部
総会報告

和十一年では同業卒業の殆どが遠くからも馳せつけ今後も故人の遺志をついで益々親交を深めることを誓い合った。

でこれを承認した。総会終了後盛大なるパーティに移り懇談後七時頃散会した。

総会に引続いて懇親会が催され、先生を囲んで最近の学校の様子、学生についての話や先輩と後

た。四十分という高い出席率であった。総会では原田副支部長(徳大工学部教授、昭十四年卒)の任期完了に伴い仁田吉氏(徳大工学部長、昭九年卒)が選任された。学



輩の間での話はずんだ。特に、阪口先生の沖繩海洋博に関する興味深いお話に話題が集まり、しばし時を忘れてのひとときとなった。

また宴半ばにして阿部支部長はじめ、他の会員の「名人芸」が披露されるなど盛会のうちに終了した。

祇園祭とお稚児さん ①

昭和10年卒 中 沼 保 三

諺に「十で神童、十五で才子、二十過ぎれば只の人」と言われるとおりの人生を歩んで来た私の丁度五十年前のことを思い出してみた。

た。二葉子供大会と称したと思う。二葉子供会は、毎年四月八日の花祭りにも子供音楽隊として参加した。

それは私が十一才の時に日本の三大祭の一つと言われる祇園祭で山鉾巡行の先頭を切って進む長刀鉾のお稚児さんをつとめたことである。

私の通学していた有隣小学校の学区内に茂山社中で師範格の武藤達三師が御幸町の安土町で漢菓商を営んでおられ、上徳寺の塩釜師と親しいところから、秋の大会に子供狂言を出す話がまとまったよう

両親とも、これという所謂毛並みの家柄ではないが、たまたま小学一年生の時より大蔵流狂言の茂山社中として狂言を習っていたことに端を発している。

生れながらの小さな私が、秋の大会で始めて多勢の観客(主に日曜学校の子供達とその父兄)の前で狂言を演じるのに、半泣きの声で目には涙をためながらやったことを覚えているが、見ている人達には、さぞ骨稽な光景であったことであろう。

いて、中学に入った時点で終わっている。話は本題に戻そう。では、話を本題に戻そう。なぜ狂言のことを書いたかというわけは、当時祇園祭の長刀鉾の稚児の衣裳の着付から祭礼当日に鉾上での舞の世話までの一切を大蔵流狂言家元の茂山師匠が世襲で受持っていたからである。これは今でも茂山家で代々受けつがれているものと思う。

私は、狂言猿の子猿の役で、茂山師に方々の能楽堂へ連れられて共演したことが多かったので、十一才の小柄な私に大正十一年の稚児として白羽の矢が立てられたものであろう。

長刀鉾町は、四条通の東洞院通と烏丸通の間の両側の家並の集まった町内である。

編集後記

○暑中御見舞申し上げます。

○洛友会の総会をはじめ、各支部で総会が催され、次々にその記事のせることとして居ります

が、本号には松田長三郎先生の御近況をはじめ、十四会の木津

主蔵氏より興味深い御寄稿を頂きました。又東北支部の川守田

氏より郷土味豊かな津軽のお話をお寄せ下さり有り難く御礼申

上げます。

京都では、例年の如く祇園祭は各地より大勢の見物客で賑わ

す。会員中沼保三氏(昭和十年卒)より祇園祭に就て詳しい由

来を書いて頂きましたので、これを分割してのせることにし、

紙面の都合上、第一報を御覧頂くことにしました。

計 報

講 T・15 高見恒雄 45・1・15

T・12 藤田誠治 48・3・24

T・9 内田英成

講 T・15 田中二作 48・3・6

謹んで哀悼の意を表します。